

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	武庫川女子大学短期大学部
設置者名	学校法人 武庫川学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
短期 大学部	日本語文化学科				10	10	7	
	英語キャリア・コミュニケーション学科				7	7	7	
	幼児教育学科				11	11	7	
	心理・人間関係学科				10	10	7	
	健康・スポーツ学科				11	11	7	
	食生活学科				9	9	7	
	生活造形学科				10	10	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/course/pdf/tandaijitumu.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	武庫川女子大学短期大学部
設置者名	学校法人 武庫川学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

武庫川学院ホームページ 法人役員 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho.j/files/pdf/index/corporate-officer.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	令和5年4月1日～ 令和9年3月31日	会社経営経験に基づく法人運営への助言、卒業生連携、国際交流促進
非常勤	弁護士	令和4年4月1日～ 令和8年3月31日	経営企画及び私立学校法関連法令
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	武庫川女子大学短期大学部
設置者名	学校法人 武庫川学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p><シラバス作成過程></p> <p>前年度</p> <p>8月 シラバス作成依頼文・作成要領の校正開始</p> <p>10月 シラバス作成要領、作成日程等を会議で諮る 会議後、各教員へシラバス作成依頼</p> <p>12月 学長より各学科長にシラバス点検依頼(予告)</p> <p>11月～1月 各教員シラバス作成</p> <p>1月 各学科長より各学科教員作成のシラバス点検・修正依頼</p> <p>2月 各学科長より学長へ点検結果報告書 提出</p> <p>3月 教育支援システムでシラバス閲覧可能</p> <p>当年度</p> <p>4月 ホームページで公表</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>ホームページ</p> <p>https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/syllabus/2023/syl_2023.htm</p> <p>教育支援システム (在籍学生はログインし、シラバスメニューを選択することで授業計画の検索が可能となる。)</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業科目の成績評価における妥当性、信頼性及び公平性を確保するために、「成績評価に関する規程」を設け、教員に配付し、周知徹底を図っている。またFDの位置付けである合同教授会や成績評価の依頼文書により成績評価の厳格化を説明している。なお、成績評価については評価の妥当性、信頼性及び公平性の観点から、試験又は平素の学習状況(授業内容に関する小レポート・小テスト、口頭発表、レポート課題、実技課題及び授業への積極的な参加度など)を総合して行うものとしており、あらかじめシラバスに評価方法を明示し、その評価方法・基準に従って厳格かつ適正に評価している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価基準に基づき、信頼性及び公平性を確保した厳正な成績評価がおこなわれている。GPAは予め設定した算出方法により算出し、成績証明書や父母等宛て成績通知書に記載している。また学生が、自らの学業成績の状況を的確に把握し、適切な履修計画とそれに基づく学習への取組みに役立つように、教育支援システム(Web)でGPAに基づいた学科内順位やクラス内順位を本人に開示している。それにより、相対的な学力の状況を学生自身が確認できる。GPA算出方法は紙媒体(Student Guide 2023)及びホームページで公表している。また、令和元年度前期の成績から「科目別成績結果一覧」により、得点分布状況をホームページで公表している。</p> $\text{GPA} = \frac{(\text{履修登録した科目}^* \text{のグレード} \cdot \text{ポイント} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録した科目}^* \text{の単位数の総和}}$ <p>※ 履修登録した科目には、不合格科目も含む。卒業非算入科目はGPA対象外。(ただし、資格課程科目はGPAの対象となる。)</p> <p>これらの取組みは、全学部同様の取扱いで行われている。 添付資料「成績の分布状況を示す資料」</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>Student Guide 2023- For Academic Studies - （短大） Student Guide 2023 -For Academic Studies 武庫川女子大学 (mukogawa-u.ac.jp)</p> <p>ホームページ：成績評価 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/grades/index.html#grades01</p> <p>ホームページ：成績情報の公表 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/grades/index.html#grades03</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>武庫川女子大学短期大学部は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性の育成するため、本学の教育目標に掲げる以下の資質・能力を身につけ、所属する学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した短期大学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら課題を見つけ、実行に移すことができる。 2. 主体的に学ぶ習慣、論理的に考える力を身につけている。 3. 教養に裏付けられた豊かな心を身につけている。 4. 高い倫理観に支えられた実践力・指導力を発揮できる。 5. 専門的・職業的技術および知識を修得し、実践することができる。 	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreeemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/junior_policy.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	武庫川女子大学短期大学部
設置者名	学校法人 武庫川学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
財産目録	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
事業報告書	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
監事による監査報告(書)	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/saiten.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/hyouka.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 日本語文化学科
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html ）
（概要）日本語文化学科は、日本語・日本文学・日本文化の教育を通じて、健全な社会の構築と発展に寄与することのできる、有為な女性を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_niti_policy.pdf ）
（概要） 本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って 62 単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士（日本語文化学）の学位を授与します。 1. 知識・理解 1-1 日本語および日本文学に関する基礎的また専門的知識を修得している。 1-2 自国および他国の文化に対する理解を深め、日本の言語・文学との関連性を把握している。 2. 技能・表現 2-1 日本語のしくみ・特性を理解し、自らの思考を他者に対して正しく発信する能力を備えている。 2-2 情報機器（ICT）活用や書道など、実用から美的領域に至る諸技能と豊かな表現力を身につけている。 3. 思考・判断 3-1 日本語・日本文学に関して身につけた専門的知識を捉えかえし、批判的に考察する能力を備えている。 3-2 論理的思考を身につけ、自ら課題を発見して解決に導く能力を備えている。 4. 態度・志向性 4-1 日常生活の中で短期大学部での学修の価値を認識し、常に学問的態度を保っている。 4-2 広範で体系的知識と豊かな感性、倫理観に基づき、自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意志を持っている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_niti_policy.pdf ）
（概要） 本学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。 本学科が開講する科目は、2年間の学修の基盤となる「基礎教育科目」と、日本語・日本文学・日本文化に関する専門的知識・技能を高める「専門教育科目」の2つの柱として編成します。 「基礎教育科目」は、短期大学部での学生生活に慣れ、専門的学修の基盤を整える科目、実用的な情報機器（ICT）活用技能を身につける科目、および実践的な日本語表現技術を習得する科目によって構成します。

「専門教育科目」は、1年次前期の「日本語学入門Ⅰ」「日本文学入門Ⅰ」から2年次の「卒業演習」まで、日本語・日本文学・日本文化に関する多面的な学修を順次深めていくように配当します。また、「美しい話し方」「社会人の敬語」「オフィス・マナー」など、社会で求められているコミュニケーション技能を習得するための科目群を重点的に設置します。「海外文化体験演習」「世界の中の日本語」など、日本文化を客観的にとらえて視野を広げるための科目も設けます。

技能・表現に関する科目では、アクティブラーニングなど双方向性の高い授業を進んで取り入れ、学生が主体的に学び発信する姿勢を養います。

「基礎教育科目」および「専門教育科目」各科目の系統的な学修を通して、日本語・日本文学・日本文化に関する幅広い知識を修得し、実用的なコミュニケーション技術を身につけ、課題発見能力と問題解決能力を獲得していきます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_niti_policy.pdf）

（概要）本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。

日本の言語・文学・文化に関する深い教養に裏付けられた、日本語によるコミュニケーション力の獲得を目指し、学修を通して得た専門的知識と論理的思考力を活かして、職業人として社会に貢献しようという意欲を持った人、中学校の国語科教諭、図書館司書等の職に就き、それぞれの分野で活躍し、社会の発展に寄与しようという意志を持った人。

そのためには、国語（現代文・古文）に習熟するとともに、文系・理系の科目をバランスよく学んで、基礎的な学力を確保していることを求めます。

学部等名 英語キャリア・コミュニケーション学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）

（概要）英語キャリア・コミュニケーション学科は、実用的な英語の習得を通して、英語コミュニケーション能力と国際感覚を有する実務型の有為な女性を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_ei_policy.pdf）

（概要）

本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って62単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士（英語コミュニケーション学）の学位を授与します。

1. 知識・理解

- 1-1 英語圏の文化や言語・文学に関して幅広く正確な知識を持っている。
- 1-2 国際社会・ビジネスに関して幅広く正確な知識を持っている。
- 1-3 国際人として必要なコンピュータリテラシーを持っている。

2. 技能・表現

- 2-1 教養レベルの英語を理解し、発信することができる。
- 2-2 専門分野の英語を理解し、発信することができる。
- 2-3 ICTを利用して情報を収集し、発信することができる。

3. 思考・判断

- 3-1 自分の考えを論理的に組み立てる力を持っている。
- 3-2 グローバルな視点から判断し、主体的に対応する力を持っている。

<p>3-3 専門知識に基づいた、クリティカルな思考力を持っている。</p> <p>4. 態度・志向性</p> <p>4-1 責任感を持ち、自律的に行動することができる。</p> <p>4-2 異文化の人たちと積極的に交流し、国際社会に貢献できる。</p> <p>4-3 知的好奇心を持ち、自らの専門を探究することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_ei_policy.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような教育方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p> <p>本学科は、アメリカ分校（MUSC）と有機的に連携し、グローバルな英語教育とキャリア教育を展開しています。全員参加のMUSCでの4ヶ月の留学（1年次後期）を通し、実践的な英語力や異文化理解・活用力を養います。更に2年次には、ビジネスでの即戦力を目指すグローバルキャリア科目群において専門的な知識と英語コミュニケーション力を高めます。また、本学科とMUSCが協力して実施する「日米企業研修」で、日本とアメリカそれぞれのキャンパスでキャリア教育を受け、企業研修に参加します。</p> <p>◇アメリカ分校留学プログラム</p> <p>1年次後期の4ヶ月間、全員がMUSCへ留学します。授業はすべて学生の英語力に応じた少人数のクラスが編成され、第2言語としての英語（ESL）教育を専門とする外国人教員が授業を担当します。また、留学期間中にホームステイや研修旅行などを通して、アメリカの文化や社会について学び、国際感覚を身につけます。</p> <p>教育課程編成の方針は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践的な英語力 1年次前期には徹底的にビジネス英語の基礎を磨き、後期には全員参加のMUSC留学（4ヶ月間）で実践的な英語力を身につけます。2年次では、MUSC留学で習得した英語力のさらなる向上を目指します。 2. キャリアに活かせるコンピュータ技能 コンピュータに関する基礎的な知識をはじめ、ICTを利用した効果的なプレゼンテーションなどの応用技能を修得し、キャリア形成に活かします。 3. グローバルキャリア科目群から学ぶ実践力 職場で使える実用的なマネジメント知識や英語コミュニケーション力を修得しながら、ビジネス・キャリアに関する知識と能力を身につけます。 4. 即戦力となるグローバル人材 全員参加の国内での企業研修やMUSC留学時におけるアメリカでの企業研修によって、国内外で活躍できる能力の向上を図ります。企業などから招いた講師によるオムニバス形式の講義を受講し、ビジネスマインドを高めます。 5. 卒業演習（短大ゼミ） 2年次開講の「卒業演習」において、グループでの調査・研究を行い、その成果を英語で発表します。 <p>教育課程全般において、きめ細かいインタラクティブな学修方法を通し、実践的な能力を高めます。</p> <p>卒業年次の卒業研究の発表および成果物を通して、教育課程全般の学修成果が総括的に評価されます。</p> <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_ei_policy.pdf)</p>

(概要) 本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。

国際社会で通用する知識や英語力を身につけ、社会で活躍しようとする者を受け入れます。

1. 知識・理解

①入学前には国語、英語、地理歴史、公民のほか数学、物理、化学、生物 といった科目や理科といった教科も幅広く履修し、基礎知識を備えている人

②入学後は欧米の言語・文学・文化に関する基礎的および専門的な知識を修得しようとする人

2. 技能・表現

①高いコミュニケーション能力を有する職業人として社会に貢献しようという意欲を持った人

3. 思考・判断

①本学科の学修を通して得た専門的知識と論理的思考力等を生かし、自ら課題を発見・解決する能力を身につけ、社会に貢献しようという意欲を持った人

4. 態度・志向性

①入学後にアメリカ分校（MUSC）へ4ヶ月間留学し、英語運用能力や異文化理解・活用力を身につけようという意欲を持った人

②国際社会で通用する幅広い知識と確かな英語力を身につけ、公的機関や民間企業で活躍しようという意欲を持った人

③中学校の英語科教諭、図書館司書の職に就き、それぞれの分野で活躍し、社会の発展に寄与しようという意欲を持った人

学部等名 幼児教育学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html)

(概要) 立学の精神と教育推進宣言に則り、幼児教育学科は、平和で民主的な社会の形成者として、新しい時代の要請を視野に入れつつ教育についての理論と実践を学び、教育界に貢献する女性の育成を目的とする。この目的のもと、豊かな人間性と創造的能力を基礎に、高い資質・能力を有し、人間としての優しさを身に付けた教育者を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_youzi_policy.pdf)

(概要)

本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って62単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期 大学士（幼児教育学）の学位を授与します。

1. 知識・理解

1-1 現代の教育・保育を支える教養的知識を有している。

1-2 教育・保育に関する専門的知識を有している。

2. 技能・表現

2-1 教育・保育の実践を行うために必要な技能を有している。

2-2 教育・保育に関わる多様な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。

3. 思考・判断

<p>3-1 市民としての自覚に基づいた思考力および創造的能力を備えている。</p> <p>3-2 教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考ができる。</p> <p>4. 態度・志向性</p> <p>4-1 教育・保育に関わる熱意と責任感を身につけている。</p> <p>4-2 教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_youzi_policy.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学科は、学生一人ひとりが自らのキャリアプランに則して履修することで、教養的・専門的知識に基づく思考力や判断力を養い、教育・保育実践のために必要な熱意や責任感、そして技能を身につけることをめざします。本学科が掲げる教育目標とディプロマ・ポリシーを達成するため、「共通教育科目」、「基礎教育科目」、「専門教育科目」からなる教育課程を編成します。</p> <p>「共通教育科目」は、現代の教育・保育を支える教養的知識を身につけ、的確な判断力を養うとともに、人間性の涵養を図るための科目群です。</p> <p>「基礎教育科目」は、主に1年次に開講され、初期演習を柱として、外国語運用能力や情報処理能力、健康や運動に関する知識や技能など、短期大学士として必ず身につけておかなければならない資質の基礎を養う科目群です。また、教育者・保育者になるための基礎となる科目群でもあります。</p> <p>「専門教育科目」は、1・2年次にわたって開講され、幼稚園教諭・保育士としての知識・技能・態度を身につけるため、教育職員免許法・児童福祉法施行規則に基づいた必修科目および選択必修科目を開講します。教育・保育に関する基礎理論に関する科目をはじめとして保育指導法などの応用的・実践的な科目、そして教育・保育実習、教職実践演習を履修するというように、適切な順序性をもって開講期を設定します。</p> <p>教育課程全般を通じて、グループ・ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等のアクティブ・ラーニングの教育方法も活用し、学生の理解と実践力を高めます。</p> <p>また、教育課程の評価については、「幼児教育・保育研究」および教員免許に係る実践演習科目における学修状況をもって教育課程全体を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_youzi_policy.pdf)</p>
<p>(概要) 本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p> <p>本学科が求める基礎学力とそれらを応用するための基礎的な思考力と判断力を有し、明確な目的意識を持って積極的に勉学に励もうとする意欲ある女性を受け入れます。また、本学科では能力に応じて、幼稚園教諭2種免許状および保育士資格が取得できますが、これらの免許・資格を必要とする領域で活躍するための資質・能力を、2年間で高めようとする熱意や責任感を有する者を受け入れます。高い資質・能力を持つ教員または保育士となるためには、文系・理系という枠組みに捉われず、国語、英語、日本史、世界史、数学、化学、生物などの科目を幅広く履修し、確かな基礎学力を備えておくことを求めます。</p>
<p>学部等名 心理・人間関係学科 ※令和5年4月学生募集停止</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html)</p>

(概要) 心理・人間関係学科は、心理学を中心とした学際的な視点から「こころ」の問題を学ぶことにより、自分を理解し他者と理解・共感しあえるこころを育て、人生のさまざまなライフ・ステージにおいて人びとと共に生き、人びとに援助の手をさしのべることのできる実践力をもった有為な女性を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/junior/policy/j_sinri_policy.pdf)

(概要)

本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って62単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士（心理・人間関係学）の学位を授与します。

1. 知識・理解

- 1-1 心理学に関する基礎的知識を有している。
- 1-2 社会福祉学に関する基礎的知識を有している。
- 1-3 レクリエーション学に関する基礎的知識を有している。

2. 技能・表現

- 2-1 自らの考えを他者に伝えられるコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を有している。
- 2-2 他者との円滑な関係を構築し、それを維持しながら多様な人々と協働することができる。
- 2-3 社会人として働く上で必要とされる一般常識や技能を有している。
- 2-4 コンピュータを使って、収集したデータを適切に処理し、文書を作成することができる。

3. 思考・判断

- 3-1 身の回りの様々な現象を分析的・論理的に考えることができる。
- 3-2 自立した女性として、自身のキャリアやライフスタイルを踏まえたライフデザインを行うことができる。

4. 態度・志向性

- 4-1 社会の一員としての役割を見だし、積極的に関わろうとする姿勢をもっている。
- 4-2 さまざまな場面で直面する問題や困難に対応できる。
- 4-3 人や社会と関わっていく上で必要とされる誠実性を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/junior/policy/j_sinri_policy.pdf)

(概要)

本学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、人の心と生活について理解を深め、社会生活に寄与できる実践的な力を身につけることができるようカリキュラムを編成します。

- 1. 人のこころの理解と援助に関する基礎的知識を習得するための科目を開講します。
- 2. 習得した知識に基づき、社会で活躍できる実力を身につけるために、実践的な演習を実施します。
- 3. 心理学およびその周辺領域を学際的に学び、論理的思考力、問題解決力、コミュニケーション能力、課題探求力、表現能力など、現代社会において必要となる社会人基礎力を習得するために、全学年で実践的な講義や演習を実施します。

教育課程では、講義のみならず、個別発表やグループディスカッション、実践的演習と

<p>いった教育方法を活用し、主体的な学修を通じた理解を高めます。</p> <p>教育課程における学修の評価については、卒業年次に実施する実践系および演習系授業でのグループ発表、または成果物の提出、さらに自己の卒業後の進路に関する決定状況をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/junior/policy/j_sinri_policy.pdf）</p>
<p>（概要）本学科は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能・意欲を備えた女性を求めます。</p> <p>人と関わることに高いモチベーションを有し、かつ心理学を体系的に学び、「自分らしさを見つける」「家庭をつくり支える」「自分を社会に生かす」「コミュニティーに参加する」など、積極的に未来の自分を創造し、社会で活躍しようとする者を受け入れます。積極的に未来を創造し、社会で活躍するためには、あらゆる場面で知識を活用し思考する力を問われます。したがって、文系・理系という狭い枠にとらわれず、国語、英語、地理歴史、公民のほか、数学、物理、化学、生物といった科目をできる限り幅広く履修し、確かな基礎知識を備えておくことを求めます。</p>

<p>学部等名 健康・スポーツ学科 ※令和5年4月学生募集停止</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）</p>
<p>（概要）健康・スポーツ学科は、科学的に裏づけられた理論と体育・スポーツの実践をおこない、心身の健康ならびに体力の保持増進について、指導的役割を担う有為な女性を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/junior/policy/j_ken_policy.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って 62 単位以上を修得し、国際的な広い視野と高い倫理観を持ち、なおかつ次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士（健康・スポーツ学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> 1-1 健康・スポーツに関する基礎的・専門的な知識を修得している。 1-2 健康・スポーツに関する幅広い見識を得るとともに、体系的に整理・理解している。 1-3 健康・スポーツの実践・指導・管理のための適切で正しい方法を理解している。 2. 技能・表現 <ol style="list-style-type: none"> 2-1 健康・スポーツを実践・指導・管理するにあたり、基本的・専門的スキルを有している。 2-2 知性・情操・徳性の涵養と、施すべき対象へのコミュニケーション能力を身につけている。 3. 思考・判断 <ol style="list-style-type: none"> 3-1 実践力を向上させるための、論理的・実証的に思考する能力を身につけている。

<p>3-2 指導現場においては、成果を得ることが大切であり、そのための問題解決の能力を身につけている。</p> <p>3-3 指導現場においては安全第一が基本でありそのための状況判断を有している。</p> <p>4. 態度・志向性</p> <p>4-1 学修の価値を正しく評価し、国際的な視野に立ちながら常に向上的態度を保ち続けている。</p> <p>4-2 高い倫理観に基づき、健康・スポーツ指導者・実践的リーダーとして、強い意欲と意志を持っている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/junior/policy/j_ken_policy.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学科では、学校や企業、地域社会で活躍できる優れた健康・スポーツの実践者・指導者を育成するための、最新のスポーツテクノロジー・医科学的理論・指導理論を踏まえた、適切で正しい実践・指導および管理法を求め、科学的・専門的に学ぶことができます。本学科ではディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針で、教育課程を編成します。</p> <p>健康・スポーツに関わる実践者・指導者および管理者に必要な基礎理論と技術を講義・演習科目で学び、それに基づく技能と演習を学内実習科目で磨き、最終的には学外の現場実習科目で応用するという段階的・発展的な学習ができる科目配置を行っています。また、健康・スポーツに関する知識と技能を体系的に学修するために、専門教育科目に「スポーツ教育領域」「健康スポーツ・ヘルスケア領域」「卒業実践研究領域」の3つの領域を設定します。</p> <p>「スポーツ教育領域科目」中学校保健体育科教員を目指す者に必要な、充実した保健体育授業を実践できるための理論と技術を身につけることができます。</p> <p>「健康スポーツ・ヘルスケア領域科目」ヘルスケア関連や健康運動実践指導者を目指す者に必要な、スポーツ、運動、身体活動を通じた健康支援の理論と技術を身につけることができます。</p> <p>「卒業研究実践領域科目」では、教職、コーチング、キッズ、高齢者・障がい者、ヘルスケアを対象にした5分野のいずれかの実践的な経験を積むことにより、健康・スポーツ科学を主体的に学ぶことができます。</p> <p>また、学びの方向および卒業後の進路等を意識させるために、1年次後期より、「教職コース」「ヘルスケアコース」の2コースを設けています。各コースにおかれた科目を学ぶことによって、より専門的に、より実践的に、優れた健康・スポーツのリーダーを育成します。</p> <p>「卒業研究実践領域科目」は、2コースいずれでも履修できます。</p> <p>さらに、このような通常学期のカリキュラム以外に、特別学期における学科プログラムにあっては、教職や各種資格の試験対策講座を開講します。</p> <p>本学科では、以上の教育課程全般において積極的にアクティブラーニングを取り入れて能動的に学修する態度を養い、各科目において「知識・理解」、「技能・表現」、「思考・判断」、さらに「態度・志向性」の枠組みで示した能力・資質について総括的評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/junior/policy/j_ken_policy.pdf)</p>

(概要) 本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。

本学科は、「Sports for All の時代をリードできる人」を養成するという教育目的を持っています。したがって、健康・スポーツを科学的・専門的に学ぼうとする強い意欲を持ち、次のような現場において活躍・貢献しようとする学生の入学を求めます。

- ①教育および生涯学習における運動指導現場において、健康・スポーツ教育の充実に貢献しようとする者
- ②競技スポーツにおけるスポーツ指導・サポート現場において、優れたコーチングとトレーニング指導によって競技力向上に貢献しようとする者
- ③地方自治体や企業・民間のスポーツ施設における施設・プログラム管理現場、医療・福祉施設などにおける運動・フィットネス指導現場において、スポーツ・運動・身体活動を通じた健康支援に貢献しようとする者

<入学時まで身に付けてほしい学力・能力>

本学科は、競技力の向上や健康で豊かな社会の構築に関わる幅広い指導者養成のため、健康・スポーツを科学的・専門的に探求する多様な学修を展開しています。そこで主体的な勉学の習慣に加えて、大学入学時まで、次のような学力や能力、スポーツの実践力を研ぎ、入学後の学修に臨むことを求めます。

- 1) 知識・技能および思考力・判断力・表現力
 - ①国語や英語などで学ぶ読解力・構成力・論理的表現力と、そこから得られるコミュニケーション力
 - ②地理歴史や公民などで学ぶ基礎的な知識と、そこから得られる社会を読み解く力
 - ③数学や理科などで学ぶ基礎的な知識と、そこから得られる論理的・科学的な思考力
- 2) 主体性を持って多様な人々と協働する力
 - ①集団活動における主体性、コミュニケーション力、リーダーシップ
- 3) 体育やスポーツ分野における実践力
 - ①各種スポーツの技術・技能、スポーツの実践力とそれに係る体力、スポーツ実践の経験知

学部等名 食生活学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）

(概要) 食生活学科は、食生活を食物科学、栄養科学、健康科学を中心として多方面から捉え、健康で豊かに暮らせる食生活を指導できる栄養士を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_syoku_policy.pdf）

(概要)

本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って 62 単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士（食生活学）の学位を授与します。

1. 知識・理解
 - 1-1 個人や集団を対象とする栄養学に関する基礎的・専門的知識を身につけている。
 - 1-2 食べ物と健康との関係について、基礎的・専門的知識を身につけている。

<p>2. 技能・表現</p> <p>2-1 臨床や福祉、学校教育の場で必要となる技能・表現力を身につけている。</p> <p>2-2 健康増進や健康管理を行う上で必要となる技能・表現力を身につけている。</p> <p>2-3 食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身につけている。</p> <p>2-4 ヒトと栄養との関係を研究するために必要となる技能・表現力を身につけている。</p> <p>3. 思考・判断</p> <p>3-1 健康や栄養・食に関する情報を自ら収集する能力を身につけている。</p> <p>3-2 科学的根拠に基づく健康・栄養課題解決の能力を身につけている。</p> <p>4. 態度・志向性</p> <p>4-1 個人や社会が抱える様々な健康栄養問題を積極的に学習する態度を身につけている。</p> <p>4-2 食生活学の専門的学習を通して、社会に貢献する自覚を身につけている。</p> <p>5. 統合的能力</p> <p>5-1 専門的知識・技術の統合を図り、栄養士として社会に貢献できる能力を身につけている。</p> <p>5-2 社会における指導者として必要なコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>5-3 栄養・食と健康に関する様々な問題について、指導的立場から解決する能力を身につけている。</p> <p>5-4 社会貢献のための実行力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_syoku_policy.pdf)</p> <p>(概要)</p> <p>本学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、短期大学士授与水準に定めた能力を持ち、栄養士として問題解決能力および実践的能力を修得することを目標にカリキュラムを編成します。</p> <p>1) 基礎教育科目は、専門知識の習得に必要な基礎知識への理解を図ることを目標に配置します。</p> <p>2) 専門教育科目は、栄養士養成のために厚生労働省によって定められている科目を配置します。</p> <p>3) サポート科目は、栄養士として必要な実践的能力を習得するためのサブ科目として配置します。</p> <p>上記の教育課程全般を通じて講義、実験・実習、演習を組み合わせた授業を展開し、学生の理解を高めます。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_syoku_policy.pdf)</p> <p>(概要) 本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p> <p>健康で心豊かな食生活を支える実践的な栄養士となって、生活習慣病の発症予防・重症化予防と健康増進に貢献しようとする者を受け入れます。具体的には入学前に、栄養学や食品学の基本となる化学（化学基礎・化学）および生物（生物基礎・生物）を学習していることを求めます。また、化学や生物だけではなく、栄養士として必要な問題解決能力や実践的能力を得るためには、国語、外国語、数学、地理歴史、公民などの科目も幅広く学習していることを求めます。</p>

<p>学部等名 生活造形学科</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ</p>
--

https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html)

(概要) 生活造形学科は、生活を形造る「衣」と「住」に関する基礎的な事柄を学ぶとともに、専門的な学習を通して創造性と感性を磨くことにより、生活者の視点に立ち幅広く活躍できる有為な女性を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針 (公表方法: ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_sei_policy.pdf)

(概要)

本学科では、大学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って 62 単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、短期大学士 (生活造形学) の学位を授与します。

1. 知識・理解

- 1-1 生活に関わる事象に対して、文化的・社会的な観点からの専門的知識を有している。
- 1-2 快適で健全な生活を形作るための、科学的・工学的な観点からの専門知識を有している。
- 1-3 生活を豊かにするモノに対して、造形的な観点からの素養を身につけている。

2. 技能・表現

- 2-1 生活を構成する事象を定量的・論理的に分析し、問題の解決につなげることのできる技能を有している。
- 2-2 生活を構成する事象に対し、創造的なアプローチをし、表現する技能を有している。

3. 思考・判断

- 3-1 新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力を身につけている。
- 3-2 新たな課題に対して、創造的能力と表現力を身につけている。

4. 態度・志向性

- 4-1 社会性を有し、他者と協調・協働して社会の発展に貢献する態度を身につけている。
- 4-2 生涯にわたり、自立して学び続けるための意欲と向上心を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_sei_policy.pdf)

(概要)

本学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような学ぶ分野について、多様な方向からアプローチしていくとの方針に基づき、カリキュラムを編成します。

暮らしの中の「衣」と「住」におけるモノを形づくる基礎的な事柄を学ぶとともに、専門的な学習を通して、創造性と感性を磨くことができます。衣を中心に学ぶ「アパレルコース」、住やインテリアを中心に学ぶ「インテリアコース」の2コースに分かれた教育課程を編成します。

学ぶ内容は、文系・理系・造形系に広く及びます。座学だけではなく、演習・実習・実験という主体的な学修方法を通して、ディプロマ・ポリシーを達成します。学んだ集大成としての選択必修科目である、卒業制作科目において、その達成度を評価します。

「アパレルコース」

アパレルのデザインや性能、素材の品質を学び、衣服の機能性を高める知識と技術を身につけることができます。創作活動を通して、時代に合った感性を磨きます。

「インテリアコース」

住やインテリアを中心に、その環境やデザインについての知識や考え方を学び、理論と実習を通して色彩や内装計画、インテリアエレメントの使い方、設計方法など、創造性と感性を磨きます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： 大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/junior/policy/j_sei_policy.pdf）

（概要）本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。

1. 知識・理解

①入学前には、国語、英語、数学、世界史、日本史、化学、生物といった科目を幅広く履修し、基礎知識を備えている人

②入学後は、生活に関わる事象に対して、文化的・社会的・科学的・工学的・造形的な観点からの基礎的・専門的な知識を修得しようとする人

2. 技能・表現

生活を構成する事象に対し、定量的・論理的・創造的なアプローチから学ぼうとする人

3. 思考・判断

新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決しようとする人

4. 態度・志向性

社会性を有し、他者と協調・協働して社会の発展に貢献する態度や、生涯にわたり自立して学び続けるための意欲や向上心を身につけようとする人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページに「大学情報の公表」として掲載している。

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	0人	—					0人
日本語文化学科	—	2人	1人	2人	0人	0人	5人
英語キャリア・コミュニケーション学科	—	3人	2人	0人	0人	0人	5人
幼児教育学科	—	3人	4人	3人	0人	0人	10人
心理・人間関係学科	—	0人	1人	0人	0人	0人	1人
健康・スポーツ学科	—	0人	1人	1人	0人	0人	2人
食生活学科	—	3人	1人	1人	0人	3人	8人
生活造形学科	—	2人	2人	1人	0人	0人	5人
教養部	—	5人	2人	0人	0人	0人	7人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
3人			122人				125人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.edusys.jp/mukogawa-u/tis/public/search					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
学長の下、委員長・副委員長以下、学科及び事務部門等から選出された委員で構成されたFD推進委員会を中心として、教員の資質向上や、主体的・恒常的に行う授業の内容及び方法の改善・向上に資する全学的な取組みを行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
日本語文化学科	100人	32人	32%	200人	75人	38%	0人	人
英語キャリア・コミュニケーション学科	100人	22人	22%	200人	50人	25%	0人	人
幼児教育学科	150人	56人	37%	300人	151人	50%	0人	人
心理・人間関係学科	—	—	—	100人	49人	49%	0人	人
健康・スポーツ学科	—	—	—	80人	46人	58%	0人	人
食生活学科	80人	38人	48%	160人	93人	58%	0人	人
生活造形学科	90人	52人	58%	180人	121人	67%	0人	人
合計	520人	200人	38%	1,220人	585人	48%	0人	人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
日本語文化学科	62人 (100%)	24人 (38.7%)	33人 (53.2%)	5人 (8.1%)
英語キャリア・コミュニケーション学科	37人 (100%)	19人 (51.4%)	16人 (43.2%)	2人 (5.4%)
幼児教育学科	59人 (100%)	20人 (33.9%)	38人 (64.4%)	1人 (1.7%)
心理・人間関係学科	50人 (100%)	18人 (36.0%)	25人 (50.0%)	7人 (14.0%)
健康・スポーツ学科	32人 (100%)	16人 (50.0%)	15人 (46.9%)	1人 (3.1%)
食生活学科	40人 (100%)	4人 (10.0%)	33人 (82.5%)	3人 (7.5%)
生活造形学科	61人 (100%)	25人 (41.0%)	32人 (52.5%)	4人 (6.6%)
合計	341人 (100%)	126人 (37.0%)	192人 (56.3%)	23人 (6.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(進学先) 武庫川女子大学、京都女子大学、京都芸術大学、近畿大学、関西医科大学、平安女学院大学、放送大学				
(就職先) 大阪市、株式会社 キャン、エム・ユー・センターサービス大阪 株式会社、株式会社 LEO C、合同会社 ユー・エス・ジェイ、社会福祉法人 みかり会、社会福祉法人 神戸YMCA福祉会、社会福祉法人 夢工房、東洋紡 株式会社等 (2人以上採用されている企業を掲載)				
(備考) 就職先は2人以上の就職実績があり、採用の多い順からピックアップ				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
日本語文化学科	61人 (100%)	54人 (88.5%)	1人 (1.6%)	2人 (3.3%)	4人 (6.6%)
英語キャリア・コミュニケーション学科	40人 (100%)	32人 (80.0%)	1人 (2.5%)	4人 (10.0%)	3人 (7.5%)
幼児教育学科	58人 (100%)	57人 (98.3%)	0人 (0.0%)	1人 (1.7%)	0人 (0.0%)
心理・人間関係学科	55人 (100%)	49人 (89.1%)	0人 (0.0%)	2人 (3.6%)	4人 (7.3%)
健康・スポーツ学科	31人 (100%)	30人 (96.8%)	0人 (0.0%)	1人 (3.2%)	0人 (0.0%)
食生活学科	50人 (100%)	38人 (76.0%)	0人 (0.0%)	10人 (20.0%)	2人 (4.0%)
生活造形学科	67人 (100%)	60人 (89.6%)	0人 (0.0%)	3人 (4.5%)	4人 (6.0%)
合計	362人 (100%)	320人 (88.4%)	2人 (0.6%)	23人 (6.4%)	17人 (4.7%)
（備考）2021年度入学生 留年に原級留置含む 中途退学者に除籍者含む 卒業延期者はその他に含む 転学部は調査対象のみカウント					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>（概要）</p> <p><シラバス作成過程></p> <p>前年度</p> <p>8月 シラバス作成依頼文・作成要領の校正開始</p> <p>10月 シラバス作成要領、作成日程等を会議で諮る 会議後、各教員へシラバス作成依頼</p> <p>12月 学長より各学科長にシラバス点検依頼（予告）</p> <p>11月～1月 各教員シラバス作成</p> <p>1月 各学科長より各学科教員作成のシラバス点検・修正依頼</p> <p>2月 各学科長より学長へ点検結果報告書 提出</p> <p>3月 教育支援システムでシラバス閲覧可能</p> <p>当年度</p> <p>4月 ホームページで公表</p>

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>（概要）</p> <p>授業科目の成績評価における妥当性、信頼性及び公平性を確保するために、「成績評価に関する規程」を設け、教員に配付し周知徹底を図っている。またFDの位置付けである合同教授会や成績評価の依頼文書により成績評価の厳格化を説明している。なお、成績評価については評価の妥当性、信頼性及び公平性の観点から、試験又は平素の学習状況（授業内容に関する小レポート・小テスト、口頭発表、レポート課題、実技課題及び授業への積極的な参加度など）を総合して行うものとしており、あらかじめシラバスに評価方法を明示し、その評価方法・基準に従って厳格かつ適正に評価している。</p>

また、卒業の認定に当たっての基準については、
 ①卒業認定にあたり、本学の定める修業年限以上在学し、履修方法に従って卒業単位数以上を修得することが前提条件となる。
 ②①を前提条件として学科別のディプロマ・ポリシーにより、学生が身につけるべき能力・資質の目標を明示し、目標を達成した学生に対し、教授会の意見を聞いて学長が卒業の認定をする。卒業が認定されたものには、学士の学位を授与する。なお、ディプロマ・ポリシーはホームページで公表している。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
短期 大学部	日本語文化学科	62 単位	有	49.5 単位
	英語キャリア・ コミュニケーション学科	62 単位	有	49.5 単位
	幼児教育学科	62 単位	有	49.5 単位
	心理・人間関係学科	62 単位	有	49.5 単位
	健康・スポーツ学科	62 単位	有	49.5 単位
	食生活学科	62 単位	有	49.5 単位
	生活造形学科	62 単位	有	49.5 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページに「大学情報の公表」として掲載している。

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
短期 大学部	日本語文化学科 (1年次)	833,000円	200,000円	200,000円	教育充実費
	(2年次)	893,000円	—円	200,000円	教育充実費
	英語キャリア・コミュニケーション 学科 (1年次)	833,000円	200,000円	200,000円	教育充実費
	(2年次)	913,000円	—円	200,000円	教育充実費
	幼児教育学科 (1年次)	894,000円	200,000円	230,000円	教育充実費
	(2年次)	954,000円	—円	240,000円	教育充実費
	心理・人間関係学科 (2年次)	954,000円	—円	230,000円	教育充実費
	健康・スポーツ学科 (2年次)	954,000円	—円	276,000円	教育充実費・野外実習費
	食生活学科 (1年次)	894,000円	200,000円	293,000円	教育充実費・実験実習費
	(2年次)	954,000円	—円	317,000円	教育充実費・実験実習費
	生活造形学科 (1年次)	894,000円	200,000円	250,000円	教育充実費
	(2年次)	954,000円	—円	250,000円	教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 教務部では、教育支援システムの運用を通して、履修、授業運営、試験、成績、学籍に関するサポートと、学修に関わる情報提供を行い、学生が専門分野の知識や幅広い教養を身に付けることができるように支援している。国際センターは、留学プログラムの実施や留学相談、外国語運用能力向上のための支援を行っている。また、海外からの留学生のサポートや交流イベントを実施。附属図書館では、教育・研究活動を支援するために学術情報基盤の構築を遂行。館内利用の情報に加え、電子情報の提供促進も図っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアセンターでは、入学直後から継続的に進路選択に関して支援。タイムリーな情報提供と個別就職相談などのきめ細かい指導で、就職活動をサポートしている。学校教育センターは、教員免許状・保育士資格の取得、採用選考試験受験や就職をサポートしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 健康サポートセンターは、学生の健康の保持増進、疾病の早期発見や予防を支援するとともに、将来の生活習慣病予防のための取り組みに力を入れている。学生相談センターでは、学生相談およびグループ・プログラム等を通して、学生生活におけるこのころの健康と成長を目指した支援を行っている。学生サポート室では、修学支援として、授業や学生生活で困りごとのある学生の相談を受け、すべての学生が等しい条件の下で学べるよう必要なサポートを実施。学内外の関係部署との連携や、サポートスタッフ学生の募集・育成も行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページに「大学情報の公表」として掲載している。

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F228310109168
学校名	武庫川女子大学短期大学部
設置者名	学校法人 武庫川学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		102人	97人	104人
内 訳	第Ⅰ区分	53人	53人	
	第Ⅱ区分	26人	34人	
	第Ⅲ区分	23人	10人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				105人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		—	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		—	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	—
計		—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間		前半期	0人 後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		18人	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		—	0人
計		18人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。